

各教科の分析結果

中学校第2学年

(1) 国語

分析結果の表記について

「小問ごとのねらいと正答率」の評価の欄の については、県正答率と予想正答率との差を記号化して示している。

- 1 県正答率が予想正答率よりも5ポイント以上高いもの.....
- 2 県正答率が予想正答率よりも5ポイント以上低いもの.....
- 3 1と2の間にあるもの

「小問ごとのねらいと正答率」の比較の欄の「H15」「全国」については、過去の基礎学力調査問題や全国教育課程実施状況調査問題と同一問題、類似問題であることを示している。

- 1 H15 ~平成15年度基礎学力調査問題と同一または類似問題
- 2 全国~平成13年度全国教育課程実施状況調査問題と同一または類似問題
正答率と誤答率は、抽出調査した全人数に対する割合を表している。

誤答例については、抽出調査した中で、割合の高かったものを中心に記載している。

(1) 国語

調査問題の構成とねらい

- ・ 「話すこと・聞くこと」、「書くこと」及び「読むこと」の領域と〔言語事項〕の3領域1事項についての基礎的、基本的な力をみる問題とした。
- ・ 聞き取り、文学的文章、説明的文章、古典、韻文、言語事項の6分野から出題した。
- ・ 理解力、思考力、判断力及び表現力を総合的にみることができるよう配慮した。

平均点 68.5点

小問ごとのねらいと正答率

大問	分野	小問	内 容・ね ら い	主な領域・事項	大問別正答率	小問別正答率	予想正答率	評価	比較	
二	聞き取り	1	話の要点をとらえながら聞き、内容を正確に聞き取ることができる。	話	86.2	94.5	70		全国	
		2	話の要点をとらえながら聞き、話の内容を聞き分けることができる。	話		96.6	70			
		3	話題の展開に即して、話の内容を正確に理解することができる。	話		70.4	60			
		4	内容を正確に聞き取ることができる。	話		83.1	75			
三	文学的文章	1	文脈に即して、適切な副詞を補充できる。	読	87.2	87.4	90			
		2	A	文脈に即して、登場人物の会話文を推察できる。		読	94.9	80		H15
			B	文脈に即して、登場人物の会話文を推察できる。		読	93.9	80		H15
		3	人物の描写に注意して、適切な一文を抜き出すことができる。	読		62.6	80			
4	文章の要旨をとらえて、心情を理解することができる。	読	97.0	90						
三	説明的文章	1	論理の展開をとらえて、適切な接続詞を選択できる。	読	63.7	79.7	80		H15	
		2	文章の展開をとらえて、適切な言葉でまとめることができる。	書		69.5	50			
		3	文章の展開をとらえて、適切な言葉を抜き出すことができる。	読		39.7	60			
		4	文章の展開に即して、内容をとらえることができる。	読		65.7	60		全国	
四	古典	1	文語を現代仮名遣いに書き直すことができる。	書	68.6	55.7	70		H15	
		2		文章の展開に即して、適切な言葉を抜き出すことができる。		読	69.5	80		
				文章の展開に即して、適切な言葉を抜き出すことができる。		読	71.3	80		
3	文章の展開をとらえて、故事成語の意味を指摘することができる。	読	78.0	80						
五	韻文	1	(1)	鑑賞文の内容に即して、適切な言葉を抜き出すことができる。	読	67.8	40.8	55		
			(2)	鑑賞文の内容に即して、適切な言葉を抜き出すことができる。	読		78.3	70		
		2	ア	短歌の内容をとらえて読むことができる。	読		61.9	70		
			イ	短歌の内容をとらえて読むことができる。	読		68.4	70		
ウ	短歌の内容をとらえて読むことができる。	読	89.6	75						
六	言語	1	主語・述語の関係を理解して、指摘できる。	言	54.8	74.2	50		H15	
		2	品詞の区別が的確にできる。	言		41.0	60		H15	
		3		正しい筆順で書くことができる。		言	46.7	40		
				正しい筆順で書くことができる。		言	27.9	35		
	4		漢字の部首を指摘できる。	言		49.9	50			
			漢字の部首を指摘できる。	言		71.5	55			
	5		これまでに習った漢字を読むことができる。	言		96.0	80		全国	
			これまでに習った漢字を読むことができる。	言		46.1	70			
	6		これまでに習った漢字を書くことができる。	言		47.5	55			
			これまでに習った漢字を書くことができる。	言		60.0	50			
		これまでに習った漢字を書くことができる。	言	25.4	35					
		これまでに習った漢字を書くことができる。	言	71.2	70					

領域・言語事項の「話」は「話すこと・聞くこと」、「書」は「書くこと」、「読」は「読むこと」、「言」は「言語事項」を表している。

一 正答率 (86.2%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)
1	スケーター	94.5	全国61.4 類似	アメンボスケーター(2.3)
2	イ	96.6		ア(2.4)
3	エ	70.4		ウ(18.6) イ(7.9)
4	おぼれてしま	83.1		しずむ(12.2) 水面に浮けない(2.0)

< 考察 >

話の要点を的確に聞き取る力を問う問題である。

「あめんぼ」が水に浮いていられる理由について述べられた内容であったが、全体的に正答率は高かった。比較的、平易な文章であることから、理解しやすかったものと思われる。

- ・ 「放送の内容を正確に聞き取る」ことをねらいとした問1については、正答率が全国教育課程実施状況調査と比べて高かった。全国教育課程実施状況調査では、全体を正確に把握する必要があったが、本調査では問題文の冒頭に答えがあり、答えやすかったためと考えられる。また、「話の内容を聞き分けることができる」ことをねらいとした問2も、正答率が高かった。これも問題文の冒頭に答えがあり、イメージがつかみやすかったためと考えられる。
- ・ 「話の内容を正確に理解することができる」ことをねらいとした問3については、「水面のまくが破れない理由」に関して問うているのに対し、「水面に浮いていられる理由」について答えているものが多かった。答えを考える際に参考となる、「あしの先にするどいつめが前向きに出ています。」という箇所が、問題文の最後の部分にあり、後半の聞き取りが不十分であったためと思われる。また、「適当でないものを一つ選ぶ」という設問の指示をよく読んでおらず、「適当なもの」を選んだ生徒もいたと考えられる。
- ・ 「内容を正確に聞き取ることができる」ことをねらいとした問4については、「しずむ」という誤答が多かった。これは、問題文にはない表現であることから、生徒自身が設問から推測して答えたものではないかと思われる。問3と同じく、答えが問題文の最後にあるので聞き取りが不十分だったことと、内容を正確に聞き取らず、自分で勝手に判断してしまったことが考えられる。

そこで、指導に当たっては、ふだんの授業において目的や場面に応じて的確に聞く能力を育成するために、次のような点に力を入れて取り組む必要がある。

「聞き取り問題」を定期試験や授業で行い、話の展開の筋道を全体的にとらえながら、要点を正確に聞き取ることに慣れさせる。

「聴写(教師が読み上げたものを生徒がそのまま書き取る)」を、授業の中に継続的に取り入れ、正確に聞き取る練習をさせる。その際、説明的文章においては、どこが事実でどこが意見なのかを意識させ、事実と意見とを聞き分けさせる。

人の話を聞く機会を多くし、話を聞きながら適切なメモをとる練習をさせる。

具体的な例～講演会や立志式の講話などの行事。総合的な学習の時間における校外学習でのインタビュー。

二 正答率 (87.2%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)
1	イ	87.4		ア(7.1) 工(4.2)
2	A	94.9	H15 92.1 類似	工(1.7) ア(1.7) ウ(1.7)
	B	93.9		ア(5.3)
3	送信機を卵のすぐ近くへ置いて	62.6		送信機の卵のすぐ近くへ置いた(20.5) ひなが残した卵の殻を手渡した(12.7)
4	ア	97.0		工(1.0) イ(1.0) ウ(1.0)

<考察>

文学的文章の読解力を問う問題である。

全体的に正答率が高かった。チャボの卵の孵化を通しての、先生と生徒とのやりとりという親しみやすい内容であったこと、さらに、リード文があることにより、話の展開が把握しやすくなり、正答率の高さにつながったものと考えられる。

- ・ 「文脈に即し適切な副詞を補充できる」ことをねらいとした問1は、正答率が高かった。また、昨年度と同じく「文脈に即して登場人物の会話文を推察できる」ことをねらいとした問2についても正答率が高かったことから、話の展開をよく理解できていたことが分かる。
- ・ 「人物の描写に注意して適切な一文を抜き出すことができる」ことをねらいとした問3は、正答率が低かった。答えとなる箇所を指摘できてはいるが、「送信機を」と書くべきところを「送信機の」と書いたり、「卵の」が抜けていたり、抜き出す際の誤記が多かったためと考えられる。また、「紺野先生がとった行動」とは違う箇所を答えるなど、設問を踏まえていない答えも見られた。
- ・ 問4は特に正答率が高かった。「文章の要旨をとらえて、心情を理解することができる」というねらいの問いであるが、少年の気持ちについて説明している設問の条件文が易しかったため、心情を推測できたものと思われる。

そこで、指導に当たっては、文学的文章を読み、内容を的確に理解する能力を高めるために、次のような手立てが考えられる。

文(文章)を正確に読む力を身に付けさせるために、繰り返し音読させたり、一文一文を正確に視写させたりする。

具体的な例～班単位で、一文読みを行う。

定期試験やプリント学習において、答え方に条件が付いているときは、設問の文章を注意深く読み、答え方の条件を見落とさないように、機会をとらえて繰り返し指導をする。

具体的な例～題名読みや情景描写と心情描写の違いに着目した読みを行う。

情景描写の読み取りとともに、登場人物の行動や会話を文脈に沿って丁寧に読み取らせる。

三 正答率 (63.7%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)
1	エ	79.7	H15 86.8 類似	ア(15.3) イ(3.2)
2	調教師を喜ばせ、自分も精いっぱい生きることを楽しむため。	69.5		文末の間違い(15.7) 生きることを楽しむため(10.5) 自分も精いっぱい生きることを楽しむため(3.2)
3	強制	39.7		知性(35.6) 意志(12.1) 能力(10.1)
4	ウ	65.7	全国 67.4 類似	エ(20.2) イ(10.3)

< 考察 >

説明的文章の読解力を問う問題である。

- ・ 「論理の展開をとらえて適切な接続詞を選択できる」ことをねらいとした問1は、昨年度より7.1ポイントほど低かったものの約80%の正答率であった。段落と段落の流れをおさえる力はある程度定着していると言える。「文章の展開をとらえ、適切な言葉でまとめることができる」ことをねらいとした問2は、筆者の挙げた二つの項目「調教師を喜ばせること」「その中で自分自身も生きること」のどちらも挙げなければならないところを、一項目のみ答えるという誤答が多かった。また、設問において、理由を問われている際には、文末表現を「～ので」や「～から」で結ぶ必要があるが、その点の不十分な解答が多かった。
- ・ 「文章の展開をとらえ、適切な言葉を抜き出すことができる」ことをねらいとした問3は、「知性」と「意志」のみを文章全体のキーワードとしてとらえているために、「強制」という解答に結び付けることができていなかった。「文章の展開に即して内容をとらえることができる」ことをねらいとした問4は、全国教育課程実施状況調査と同様に、内容を問題文全体の展開に即してとらえることが、十分にはできていなかった。

そこで、指導に当たっては、次のような手立てが考えられる。

段落ごとの内容をとらえるために「序論・本論・結論」という説明文の基礎的な構成を意識させ、段落相互の関係を正しく押さえる読解の基本的な技能を身に付けさせる。

文章の内容を把握し、目的や必要に応じて要約する指導を適宜行う。

具体的な例～筆者の考えが述べられている文か、具体例が書かれている文かに着目し、筆者の考えが述べられている文をまとめる。

文章のキーワードをとらえさせ、それがどのように使われているかに注意しながら読み取らせるように指導する。

具体的な例～題名に着目させるとともに、何度も繰り返して出てくる言葉に注意した読みを行う。

質問に応じた正しい文末表現を繰り返し練習させる。

具体的な例～「なぜか」という質問には、「～だから」と呼応させる。

四 正答率 (68.6%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	比較(%)	誤答例(%)
1	くらう	55.7	H15 58.7 類似	くうものです(21.4) 食うものです(16.8)
2	ア	69.5		エ(15.2) イ(8.4)
	エ	71.3		ア(18.1) ウ(8.0)
3	ア	78.0		イ(9.8) ウ(8.6)

<考察>

故事成語「虎の威をかる狐」を素材にした文章により、古典（漢文）に関する基礎的な力をみる問題である。

- ・ 「文語を現代仮名遣いに書き直すことができる」ことをねらいとした問1の正答率は、昨年度より3.0ポイントほど下がった。「現代仮名遣い」を問うているにもかかわらず、誤答はすべて、現代語訳しているものであった。これは、「現代ではどのように書き表すか」という設問の意味を「現代仮名遣いに書きかえる」こととして理解できなかった生徒が多かったためと考えられる。
- ・ 「文章の展開に即して、適切な言葉を抜き出すことができる」ことをねらいとした問2は、誤答例からみると、現代語訳と文語文を正確に対応させて読むことができなかったことや、現代語訳の内容の読み取りが不十分であったことが考えられる。
- ・ 「文章の展開をとらえて故事成語の意味を指摘することができる」ことをねらいとした問3は正答率が高かった。平成14年度の類似のもの比べて、21ポイント上昇している。

そこで、指導に当たっては、古典としての古文や漢文を理解する基礎を養い、古典に親しむ態度を育成するために、次のような手立てが考えられる。

目的意識を明確にした上で、音読や暗唱を継続的に行い、古文・漢文の読みに十分慣れ親しませる。

「歴史的仮名遣い」、特に単語の途中にくる「ハ」、「ワ行」や「古語の意味」(「いと」のように、現代では使われないもの、「ののしる」のように、現代と違う意味のもの。)など、古典を読む際の基礎となる力を確実に修得させる。

文語文と現代語訳を照らし合わせながら読み、動作の主体は誰かなど、要点を押さえながら、内容を的確にとらえさせる。

機会をとらえて、古典に触れさせる。

具体的な例～・「歌会始」などの行事にからめて百人一首に触れさせる。

- ・ 身近な故事成語への関心を高める。
- ・ 古典に関心をもたせるように書かれた現代の文章を紹介する。
- ・ 安井息軒，児玉久右衛門など、宮崎県に関連する人の書いた古典の文章を読ませる。

五 正答率 (67.8%)

問題番号	標準解答	正答率(%)	誤答例(%)		
1	(1) 春ゆかんとす	40.8	我目(25.6)	今年ばかりの(10.4)	いちはつ の花(10.2)
	(2) 命	78.3	春(13.4)	生命(2.0)	
2	ア E	61.9	D(18.8)	F(13.6)	
	イ B	68.4	F(18.1)	E(6.3)	
	ウ C	89.6	B(5.4)	F(2.0)	D(1.3)

<考察>

韻文(短歌)やその鑑賞文についての読解力を問う問題である。

- ・ 「鑑賞文の内容に即して適切な言葉を抜き出すことができる」ことをねらいとした問1の(2)は適語補充の問題であるが、漢字一字で抜き出すという条件があるため、正答率が高かった。「短歌の内容をとらえて読むことができる」ことをねらいとした問2のウは、短歌の内容が分かりやすく、「子」という言葉が他の短歌では出てこないために選択しやすかったため、正答率が高かったと考えられる。
- ・ 問1の(1)は正答率が特に低かったが、歌中の「春ゆかんとす」に込められた作者の思いを読み取ることが難しかったためと思われる。また、鑑賞文中の「我目には今年ばかりの」「ほかの人の目には」「わたしの目には、今年限りで春は来ない」という表現にとらわれすぎて、「我目」という誤答が出てきたものと考えられる。
- ・ 問2のアでは、誤答としてDが多かった。これは説明の文にある「『の』の多様」だけに気をとられ、「植物の様子」であることを見落としたことが考えられる。また、イでは「色彩」という言葉から、色の名が出ている短歌を選んだ誤答も目立った。これらの誤答は、短歌を読んでその情景全体を想像する力が十分に身に付いていないために、短歌の一部や説明の一部だけを見て答えたからであると考えられる。
- ・ 全体として、提示された問題文や設問の文を注意深く読まないために、正解を答えられないという傾向がある。

そこで、指導に当たっては、作品に描かれた情景、心情などを表現に即して読む能力を育成するために、次のような点に留意する必要がある。

機会をとらえ、設問の文を正確に読むように指導する。特に、答え方の条件は何かなどを注意深く読むように、繰り返し指導する。

短歌に詠まれている言葉を手がかりに、情景を具体的に思い描かせたり、一語一語に込められた作者の思いを大切にしながら読み味わわせる学習活動を工夫する。

具体的な例～鑑賞文を書く。想像した情景を絵に描いてみる。

表現上の違いや特徴を考え、より深く味わい、目的と必要に応じて多様な読みができるような指導の工夫をする。そのためには、表現技法や短歌のきまりなどの知識を確実に習得させることが必要である。

具体的な例～同じ主題で詠まれたいろいろな短歌を読み比べる。

六 正答率 (54.8%)

問題番号	標準解答	正答率 (%)	比較 (%)	誤答例 (%)
1	動きだし	74.2	H15 38.9 類似	象のように(13.6) ゆっくりと(8.9) 驚いた(1.8)
2	イ	41.0	H15 71.5 類似	ク(23.5) ア(20.8) ウ(6.2)
3	四	46.7		五(28.9) 三(18.9)
	一	27.9		二(39.6) 三(30.6)
4	ござとへん	49.9		おおざと(20.8) ござと(4.2) 無解答(23.9)
	りっとう	71.5		りっしんべん(14.3) おおざと(1.8) 無解答(10.2)
5	おさ	96.0	全国 91.7 同一	もと(2.2)
	おんけい	46.1		おんえ(16.8) おんい(12.3) おんし(12.2) おんみ(8.6)
	かえり	47.5		こころ(26.8) あわれ(8.6) かいま(8.1)
6	備	60.0		備(20.9) 供(14.8)
	保障	25.4		保証(58.9) 保償(3.2) 保生(3.0)
	雑誌	71.2		雑紙(23.1) 雑誌(3.2)

< 考察 >

言語事項に関する問題である。

- ・ 「主語・述語の関係を理解し、指摘できる」ことをねらいとした問1は、昨年度と比べて述語の位置が近かったため、正答率が大幅に上昇したと考えられる。「品詞の区別が的確にできる」ことをねらいとした問2は、正答率が平成15年度と比較して大幅に下がっている。この原因としては、第1に、「楽しい」という終止形ではなく、「楽しく」と出題されており、形容詞の活用の形を正確に把握していなかったため、第2に、「楽しく」の基本形が「楽しい」と活用させて考えることができない生徒が多いため、第3に、「楽しい」という言葉を単純に感動の気持ちと結び付け、「感動詞」であると誤答したためであると考えられる。
- ・ 「正しい筆順で書くことができる」ことをねらいとした問3の は、平成14年度と比べて、6.7ポイント、「漢字の部首を指摘できる」ことをねらいとした4の は7.5ポイント上昇している。また、「これまでに習った漢字を読むことができる」ことをねらいとした6の は、全国教育課程実施状況調査と比べて、4.3ポイント高い。各学校での取組の成果が少しずつ現れてきていると考えられる。しかし、3の は見慣れているはずの漢字であるにもかかわらず、正答率が低かった。さらに、正しい筆順への意識を高める必要がある。

そこで、指導に当たっては、次のような指導の手立てが考えられる。

授業の中に小テストを位置付け、さらに、筆順や部首名、文法、同音異義語等を練習するプリントを作成して、定期的に与える。その際に、小テストの予習、復習の手立てを示すことが大切である。

「生活の記録」の活用など、ふだんから表現活動の中に漢字を用いて書く態度を育成することと、読む本のジャンルを広げたり、新聞を読む習慣づくりに努めたりする。

新聞のコラムなどを視写させることによって語彙力を増やし、それぞれの言葉がもつ意味を的確にとらえさせる。

